

信州防災「逃げ遅れゼロ」宣言

令和元年東日本台風（台風第19号）は、県内に初めて大雨特別警報が発表されるなど、記録的な大雨となり、千曲川流域を中心に、県内各地で河川の氾濫や土砂災害、風害等が発生し、広範囲にわたる大規模災害となって、1,700名を超える方が浸水域から救助されました。

これまでも、県と市町村は、長きにわたり防災・減災対策に取り組んでまいりましたが、我が国で頻発する大規模な気象災害は気候変動が大きな要因であり、さらに激化することが懸念されています。

特に水害や土砂災害は、適切に避難をすれば人的被害を最小限に抑えることができることから、県は浸水想定区域図の作成や切迫性が伝わる情報発信に努めるなど、また、市町村は適時適切な避難勧告の発令や確実な情報伝達、必要な避難先の確保などの避難対策の充実を図るとともに、住民への防災・減災に関する啓発などを行います。

そして、住民は「自らの命は自らが守る」認識のもと、自らの判断で避難行動をとる、という防災意識の高い社会を、一日も早く構築する必要があります。

我々は「決して逃げ遅れを出さない」という強い決意のもと、防災意識の高い社会の実現を目指し、県と市町村とが一体となって防災・減災対策を推進することを、ここに宣言します。

令和2年6月3日

長野県知事 阿部 守一